



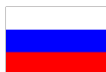
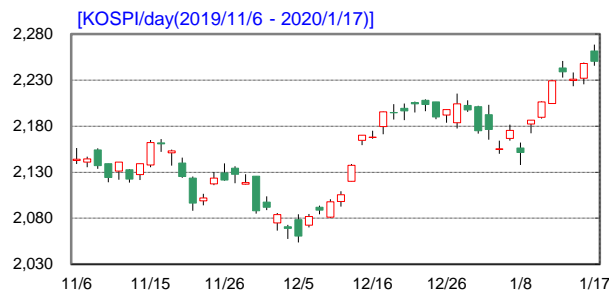
【韓国】 総合指数は週間で2.0%高と続伸、今週は利益確定売りが出やすいか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.0%高と続伸した。米中対立の緩和を好感して総じて堅調に推移した。週明け13-14日は米中が通商協議の「第1段階」合意文書に署名することへの期待が広がったほか、半導体メーカーの業績改善見通しも手掛かりとなり、連日で2019年4月以来、約9カ月ぶり高値を更新。

週半ばの15日は利益確定売りに押されたものの、米中による通商文書への署名を受けて16日は再び買い優勢で推移した。貿易摩擦が韓国経済を押し下げる懸念が後退し、サムスン電子など主力半導体株が相場の上昇をけん引した。17日は1年3カ月ぶり高値を更新して終えた。今週は24日が旧暦大晦日のため休場。旧正月連休を前に利益確定売りが出やすいか。国内経済指標では19年10-12月期GDP速報値などが発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は1.4%高と7週続伸、今週は新首相への期待が好材料か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.4%高と7週続伸。プーチン大統領がミハイル・ミシュスチン連邦税務局長官を新首相に指名し、ロシア下院が承認したことが好感され、週後半に大きく上昇した。週前半は原油相場をにらみ、利益確定売りが強まる場面もあったが、週後半は税務局の改革で実績がある新首相の指名を好感し、通貨ルーブルや株式が買われた。ミシュスチン氏は演説で生活水準の改善を優先課題に挙げた。RTS 指数は16-17日の2日間で2.2%上昇。1637.75ドルで引け、7年9カ月ぶりの高値を更新した。個別では投資判断引き上げが好感された素材のルサルが16.7%高と急伸し、同業のMMCノリリスクニッケルが8.3%高。ロスネフチなどのエネルギー株も買われた。今週は新首相への期待が引き続き支援となるか。

▼指数チャート



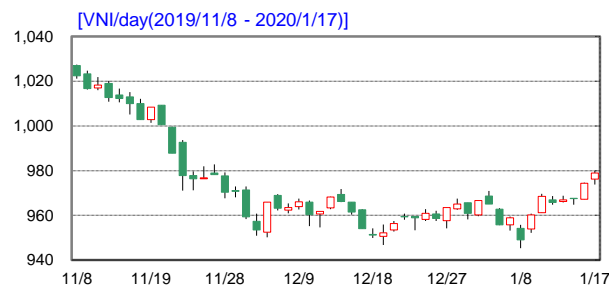
【ベトナム】 ベトナム指数は1.1%高と4週続伸、今週は世界的なリスクオンで堅調か

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.1%高と4週続伸。時価総額の大きい金融株が大きく上昇し、指数を押し上げた。週前半はもみ合いとなったが、週後半は米中が通商合意文書に署名し、リスク選好が高まる中、好調な業績見通しを発表したベトナムバンクなどの金融株が大幅高となり、相場をけん引した。金融株は時価総額2位のベトナムバンクが週間で5.6%高で、ベトインバンクが5.9%高、ベトナム投資開発銀行が4.3%高。不動産のピンホームズや空運のベトジェット航空も1%超上昇した。一方、エネルギーのペトロベトナム・ガスが2.8%安となり、指数の上値を抑えた。指数は14日から17日まで4日続伸し、978.96ポイントで終了。11月21日以来、2カ月ぶりの水準を回復した。今週も世界的なリスクオンの流れを追い風に堅調か。

▼指数チャート



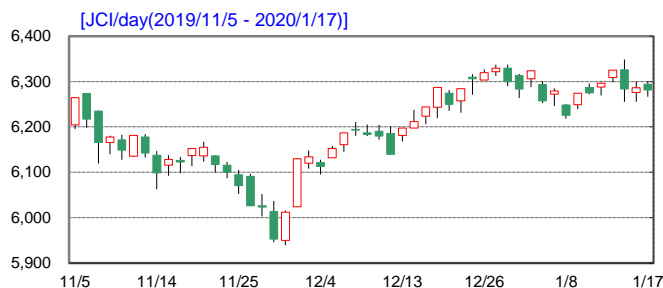


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3%高と 3 週ぶりに反発。おおむね堅調な値動きだった。週前半は 15 日に米中貿易交渉の「第 1 段階の合意」の署名式を控えた期待感から買い優勢の展開となり、14 日には終値で 7 営業日ぶりに 6300 ポイントを回復。一方、15 日は 19 年 12 月の貿易赤字が市場予想を大幅に下回ったものの、ムニューシン米財務長官が対中制裁関税を「第 2 段階合意」までは部分的に継続すると説明した影響で、指数は 5 営業日ぶりに反落した。ただ、16 日に前日の署名式を好感して買い戻されると、17 日も小幅に続伸して引けた。今週は 23 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

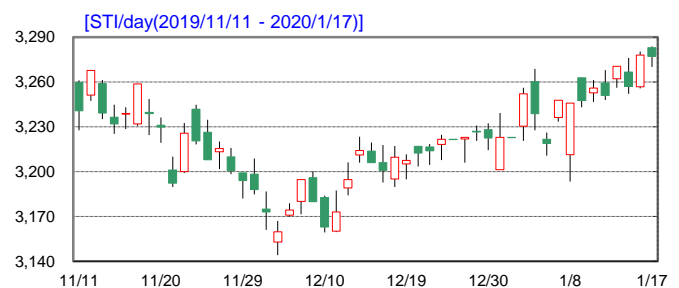


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%高、19 年 12 月の非石油地場輸出が前年超え

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.8%高と 4 週続伸。じりじりと上値を広げた 1 週間だった。週初の 13 日は 3 営業日ぶりに反落したが、14 日は中国の 19 年 12 月の輸出額が 5 カ月ぶりに前年同月の水準を上回った効果で反発した。15 日は反落したものの、その後は堅調で、17 日には終値ベースで約 2 カ月ぶりの高値を更新している。同日に発表された 12 月の非石油地場輸出はエレクトロニクス部門の低迷を医薬品部門の急伸で補い、前年同月比 2.4%増と 10 カ月ぶりに前年の水準を超えた。今週は 23 日に 19 年 12 月の CPI、24 日に鉱工業生産が発表される予定。24 日は旧正月前日のため半日立ち合いとなる。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.3%高、今週は 19 年 12 月の貿易統計が焦点

SET 指数は週間で 1.3%高と反発。好地合いの中、週末に終値で節目の 1600 ポイントに到達した。週初の 13 日は、審議が遅れていた 20 年度予算案（19 年 10 月 - 20 年 9 月）が前週末に下院で可決されたことが買い材料となり、指数は 3 営業日続伸。15 日は 5 営業日ぶりに反落したが、16 日に反発すると、17 日は中国の 19 年 10 - 12 月期の GDP 成長率が市場予想通りだった上、12 月の固定資産投資と鉱工業生産が予想から上振れした効果で買われ、指数は終値で約 2 カ月ぶりの高値を更新して引けた。今週は 22 日に 12 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定で、輸出額が前年同月の水準を上回れば好材料。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%高、インド向けパーム油輸出が事実上の中止

クアラルンプール総合指数は週間で 0.3%高と反発。週半ば以降の上昇が奏功した。週初の 13 日は利益確定売りで続落。14 日はマハティール首相によるインド政府批判を受け、同国向けのパーム油輸出が事実上、停止された影響でサイム・ダービー・プランテーション株が下げ、指数の下落を主導した。一方、15 日は引け際に買いが集中し、4 営業日ぶりに反発。16 日も続伸すると、17 日はノルウェー政府系のテレノールから出資を受ける可能性が報じられた通信大手のアシアタ・グループが指数上昇をけん引した。今週は 22 日に 19 年 12 月の CPI が発表される予定。24 日は旧正月前日のため半日立ち合いとなる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。